

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.28

今週のキーワード！ ビレンドラ皇太子
プリンス・チャーミング

ネパールのビレンドラ皇太子(当時)は、『インド私録』に登場する数ある著名人の中でも特に印象深い人物ではないでしょうか。国王となってからは、民主制に理解を示し、政体を絶対王政から立憲君主制に移行させるなど、名君としての誉れ高い国王であったことと、2001 年 5 月の王宮乱射事件でその命を絶たれるという悲劇とをどうしても対比せずにはいられないからです。

1967 年 4 月から 9 月にかけて来日し、東京大学の特別聴講生として日本に留学されていたビレンドラ皇太子は、『インド私録』によれば、「歌舞伎役者にしてもいいくらいの男前」。今でいうイケメンである上に、「日本滞在中のビレンドラ殿下に接した日本人で、殿下の人柄を賞賛しない人はまずいかなかった」(『インド私録』)というほど人柄が際立つ人



熱海高校下法面に植えられたヒマラヤザクラ。写真:熱海市ホームページ。

物でした。

『インド私録』341 頁には、太めのズボンをはいた大人たちを引き連れ、当時流行の細身のスーツを着て颯爽と東大キャンパスに行く皇太子の写真が載っています。高貴な血筋、恵まれたルックス、人柄のよさ。女性にとってはまさに理想の王子様ともいえそうです。事実、武藤氏によれば、当時のネパール大使館には、そうした皇太子に熱を上げた日本人女性職員もいたとか。

それはともかく、『インド私録』のいくつかのエピソードから浮かび上がるビレンドラ皇太子は、気配りのできる人物であったようです。蕎麦屋でサクラの客に挨拶したこと、国王となって再度来日した折には武藤氏の父親の消息を尋ねたことなどがそうです。おそらく何気ない振る舞いが『インド私録』に綴られている以外にもあったことでしょう。そうしたビレンドラ皇太子の人となりを感じさせるエピソードが、熱海市に残されていました。

ビレンドラ国王のさくら
熱海市で根付く日ネパール友好

武藤氏の話によれば、ビレンドラ皇太子は学業に打ち込む傍ら、日本の各地に旅行されています。

その記憶を今に伝えるのが、熱海市で 11 月から 12 月に見頃を迎える「ヒマラヤザクラ」です(写真ご参照)。

熱海市のホームページによれば、ビレンドラ皇太子は 1967 年 8 月に伊東市を訪れた際、熱海植物友の会より熱海の桜と梅の種子を献上されました。ビレンドラ皇太子はそのことを忘れず、翌年 5 月にその返礼としてヒマラヤザクラの種子を贈ってられました。熱海市では早速、同年 7 月にこれを市営農場で播種、育成し、県立熱海高校など市内各処に植樹。今でもこれらのヒマラヤザクラは、「ビレンドラ国王のさくら」と呼ばれ親しまれているとのことです。

また、熱海市では日本とネパールの国交樹立 50 周年にあたる 2006 年に、そのお祝いとともに、市が進めている「花を活かしたまちづくり」を推進するため、ヒマラヤザクラの記念植樹も行っています。(http://www.city.atami.shizuoka.jp/)

なお、ヒマラヤザクラは熱海以外でも都内の小石川植物園で鑑賞することができます。同園の開花情報によれば、今年は 12 月中旬が開花時となっています。

第 30 回放送は 12 月 21 日

いよいよ最終回です。

